

華燭の詩（本宮三香）

歡び 溢る 鴛鴦 比翼の 前

金屏 玉燭 華筵を 照らす

三三三 互いに 酌む 九杯の 酒

両々 相 結ぶ 幾世の 縁

月に 齊しき 令朗 眞に 皓潔

花を 粧う 淑女 亦 嬋娟

人生の 景福 是に 過ぐるは 無し

好く 周南を 唱えて 管弦に 和せん

歡溢鴛鴦比翼前 金屏玉燭照華筵
三三互酌九杯酒 兩兩相締幾世縁
齊月令郎眞皓潔 粧花淑女亦嬋娟
人生景福無過是 好唱周南和管絃

解説 結婚式を述べた詩。

語釈 ※華燭 結婚の席にともし火。 ※鴛鴦 夫婦や男女の仲むつまじい様子
をいう。 ※比翼 二羽の鳥が互いに翼を並べて飛ぶ。白楽天の「長恨歌」で有名。
※金屏 金屏風。 ※玉燭 美麗なともしび。 あかり。 ※華筵 はなやかな宴。酒宴。
※幾世 多くの年月。 ※令朗 令息。 ※皓潔 けがれなく、清らかなこと。
※嬋娟 めでやかで美しいこと。 ※景福 めでたいしあわせ。 ※周南の章 「詩経」
周南・桃夭から。嫁ぐ若い女性の美しさを桃の瑞々しさにたとえた。 ※管弦 管樂
器と弦樂器。横笛などの笛類と、琵琶・琴などの弦類。

通釈 今夜の喜びは、おし鳥のような、新郎新婦の前に溢れている。金屏風が立
られ、白玉の電灯が、煌々として、華やかな席上に輝いている。二人の仲で三三九
度の盃が互に酌み交され、雙方の間で幾世かわらぬ夫婦の縁を結ぶのである。月に
も比うべき新郎は、心も潔白であり、花を粧う新婦は美しくとやかである。さて
人間の目出たい幸は、結婚の大禮に過ぎたるものはない。私は周南の章を唱えて、
笛や三絃に和して御祝いをするのである。